

令和 4 年 6 月の解説（週間天気予報）

【6月の天候状況】

上旬は、北日本では、低気圧や気圧の谷、オホーツク海高気圧から流れ込む冷たく湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、平均気温はかなり低くなりました。東日本と西日本では、1日から4日にかけては高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、関東地方を中心に大気の状態が不安定となった日があり、各地でひょうの被害が相次ぎました。5日から7日にかけては低気圧や前線の通過によりまとまった降水となりましたが、8日から10日にかけては西日本を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった一方、東日本太平洋側では気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすく曇りや雨となった所がありました。このため、日照時間は西日本太平洋側でかなり多くなりました。また、関東甲信地方は6日ごろに梅雨入りしたとみられます。気温は、6日から9日にかけてを中心に冷涼な空気の影響を受けやすく平年を下回りました。沖縄・奄美では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多く、日照時間はかなり少なくなりました。気温は、1日から6日にかけては暖かい空気が流れ込み平年を上回りましたが、7日から10日にかけては冷涼な空気の影響を受けやすく平年を下回りました。

中旬は、北日本では、天気は数日の周期で変化しました。東日本、西日本と沖縄・奄美では、東シナ海から本州南岸付近に停滞した梅雨前線や前線上を東進した低気圧の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりましたが、東日本と西日本ではまとまった降水とならなかった所が多く、日本海側を中心に高気圧に覆われて晴れた日もありました。九州南部、九州北部地方では11日ごろ、四国地方では13日ごろ、中国地方、近畿地方、東海地方、北陸地方では14日ごろ、東北南部、東北北部では15日ごろに梅雨入りしたとみられます。一方、沖縄地方では、20日ごろに太平洋高気圧に覆われて晴れた所が多くなり、梅雨明けしたとみられます。気温は、北日本、東日本、西日本では11日から15日にかけては冷涼な空気の影響で平年を下回る日が多くなりましたが、17日から20日にかけては暖かい空気が流れ込み平年を上回る日が多くなりました。沖縄・奄美では13日から14日にかけてと18日から20日にかけてを中心に暖かい空気が流れ込み平年を上回る日がありました。

下旬は、21日から22日にかけては梅雨前線が本州付近に北上し、東日本と西日本を中心に曇りや雨となりました。一方、奄美地方では太平洋高気圧に覆われて晴れた所が多くなり、22日ごろに梅雨明けしたとみられます。24日から25日にかけては前線を伴った低気圧が北日本を通過し、北日本から西日本で雨となりました。その後、太平洋高気圧の北への張り出しが強まり、梅雨前線は北日本まで北上しました。このため、北日本では低気圧や梅雨前線の影響を受けて曇りや雨となり、大雨となった所がありました。一方、東日本、西日本と沖縄・奄美を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れの日が続きました。九州南部、東海地方、関東甲信地方は27日ごろ、九州北部地方、四国地方、中国地方、近畿地方、北陸地方は28日ごろ、東北南部は29日ごろに梅雨明けしたとみられ、1951年以降で最も早い記録となった所が多くなりました（速報値）。高気圧に覆われやすかったため、日照時間は、東日本と西日本の日本海側と東日本と西日本の太平洋側でかなり多く、沖縄・奄美で多くなりました。東日本太平洋側の日照時間は平年比207%で、統計開始以降、6月下旬として1位の多照となりました。また、降水量は西日本太平洋側でかなり少なく、東日本と西日本の日本海

側と東日本太平洋側で少なくなりました。一方、北日本は低気圧や前線の影響で大雨となった所があり、降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側の降水量は平年比 317%で、統計開始以降、6月下旬として1位の多雨となりました。暖かい空気が流れ込みやすかったため、平均気温は北日本、東日本、西日本でかなり高く、平年差は東日本で+4.0℃、西日本で+3.2℃となり、それぞれ統計開始以降、6月下旬として1位の高温となりました。23日以降は東日本と西日本を中心に猛暑日となった所があり、群馬県伊勢崎市で25日に日最高気温 40.2℃、29日に 40.0℃を観測しました。

【6月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値(注)よりも6ポイント高い71%でした。地方別の適中率では、東北、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部の各地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.4℃小さい2.3℃で、東海地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい1.4℃で、全国各地で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の週間天気予報の利用にあたって】

8月は年間を通して最も気温が高く、真夏日(日最高気温が30℃以上の日)が最も多く、猛暑日(日最高気温が35℃以上の日)となることもあります。熱中症対策の情報として、翌日又は当日の暑さ指数(WBGT:湿球黒球温度)が33以上になることが予測される場合に「熱中症警戒アラート」が発表されます。これらの情報とあわせて、週間天気予報に記載されている向こう一週間の日々の最高気温予報も参照し、熱中症予防など健康管理に活用ください。